

「えち鉄」に乗ろう シリーズ ①

読んだ、乗った、良かった —えち鉄情報—

「えち鉄」は、学生や高齢者など交通弱者の安全な遠距離移動には大事な足です。勝山での乗降客増は、勝山の財政負担軽減にもつながります。ぜひ、一人ひとりが乗る工夫をして、限りなき未来への貴重な財産として残しましょう。

◆福井や越前市などへの出張時に、えち鉄を利用されている橋本さん(本町)から、お話を伺いました。

私は、「公共施設へのアクセスがある程度確保されているので、コミュニティバスの時刻表を参考にしながらえち鉄に乗れば便利です。電車の中では、資料に目を通したり、読書や睡眠をしています。すぐに時間が経ってしまいます。車の運転と比較して、安全で自由な時間を与えてくれる電車は、本当に便利だと思います。

要望として、勝山駅と街中への確かな足が確保されると、お年寄りの利用にも、優しくいいと思います。

また、休日越前市へ出かける時は、えちぜん鉄道と福井鉄道共通のフリーキップが1200円であり、とても経済的です。



◆ふるさと鉄道を守る会を代表して、伊藤格郎さん(鹿谷町保田)から、保田区民の電車に乗る運動について、お話を伺いました。

保田区では、10年ほど前に、鉄道存続に向けて、保田区ではほぼ毎年、区をあげて電車に乗り近場に出かける催しを実施しています。フリー切符を利用して、昨年はたけふ菊人形でゆつくりと過ごしました。今年は福井駅からマイク口バスを借り上げ、すかつとランド九頭竜で懇親会をし、養浩館や福井市郷土歴史博物館を訪れ、電車で帰りました。毎回80人前後の多くの区民から「電車の中でゆつくりと会話ができ、コミュニケーションが図れてよかった。」電車を利用した楽しい行事をこれからも続けて欲しい。」との声が出ています。また、このような企画により、電車に対する理解も深まっています。

高齢者や子どもに配慮したの行き先や安全確保を考え、時間が正確で計画が立てやすい電車は、便利なものです。

◆ふるさと鉄道を守る会を代表して、伊藤格郎さん(鹿谷町保田)から、保田区民の電車に乗る運動について、お話を伺いました。

保田区では、10年ほど前に、鉄道存続に向けて、保田区ではほぼ毎年、区をあげて電車に乗り近場に出かける催しを実施しています。フリー切符を利用して、昨年はたけふ菊人形でゆつくりと過ごしました。今年は福井駅からマイク口バスを借り上げ、すかつとランド九頭竜で懇親会をし、養浩館や福井市郷土歴史博物館を訪れ、電車で帰りました。毎回80人前後の多くの区民から「電車の中でゆつくりと会話ができ、コミュニケーションが図れてよかった。」電車を利用した楽しい行事をこれからも続けて欲しい。」との声が出ています。また、このような企画により、電車に対する理解も深まっています。

高齢者や子どもに配慮したの行き先や安全確保を考え、時間が正確で計画が立てやすい電車は、便利なものです。



白山と平泉寺の魅力に迫る 白山文化フォーラム2006

今年で6回目を迎える「白山文化フォーラム2006」が、10月7日(土)、8日(日)の両日、市内で開催されました。

このフォーラムは、霊峰白山の信仰を背景に、平安から戦国時代にかけて強大な宗教勢力に成長した平泉寺の魅力に触れ、さらには白山麓の歴史や文化、自然にも触れてもらおうと、2001年からスタートしたものです。

第1部 白山文化研究会

7日は、京都国立博物館の久保智康先生に「古代の山林寺院の展開」と題して専門的なお話をいただきました。研究会には市内外から約100名が参加し、先生の紹介される信濃地域の事例から初期の平泉寺の謎に迫るお話を、熱心に耳を傾けていました。



第3部 市民フォーラム

8日の午後からは、白山や平泉寺の身近な話題を切り口に、その魅力について共に考えていこうと「市民フォーラム」が教育会館で行われました。今年は「白山・平泉寺の今、未来～白山麓の今と未来への展望を語る～」と題して、パネラーの先生がたに発言をいただきました。現代に生きる私たちにとって白山や平泉寺の魅力とは何か、どのような未来への展望があるのかなどについて議論が深まりました。



第2部 平泉寺史跡見学会

8日の午前中に行われた見学会では、約70名のかたがたが参加し、学芸員らの説明を聞きながら、平泉寺白山神社や発掘現場、地区内に点在する旧跡などを巡りました。2004年から3カ年事業で調査してきた僧坊跡発掘現場では、石垣や区画整理などに当時の高い技術があったことが説明されると、見学者からは感嘆の声が聴かれました。

11月は児童虐待防止推進月間

毎年11月は「児童虐待防止推進月間」として位置づけられています。一人ひとりが、急増する児童虐待問題に関心を持ち、理解をより一層深め、主体的に関わりを持っていただきたいと思います。

あなたの「もしや？」が子どもを救う。

子どもの笑顔は天使の笑顔。しかし中には、保護者から危害を加えられたり、適切な世話をされなかったりして笑顔がなくなっている子どもがいます。

子どもへの虐待は保護者の性格や年齢、収入、家族構成、子どもの年齢など様々な要因が絡んでいます。市では、「勝山市要保護児童対策地域協議会・児童虐待防止ネットワーク会議」を通して、虐待の被害を最小限に抑えるよう児童相談所や民生・児童委員などと連携して対応します。

すべての子どもが心身共にすこやかに成長するためには、一人ひとりが日ごろから地域の子どもの関心を持つことが大切です。連絡や相談をした人のプライバシーは、必ず守られます。安心してご連絡ください。また、保護者の皆さんも育児の悩みを一人で抱え込まず、早めにご相談を。

こうした行為は「しつけ」ではなく「児童虐待」です!

- 身体的虐待**▶ 殴る、蹴る、やけどを負わせるなど
- 性的虐待**▶ 性的行為の強要、性器や性行為を見せる、ポルノグラフィティの被写体にするなど
- ネグレクト**▶ 配偶者や同居人による虐待を放置する、ひどく不潔な状態にする、食事を与えない、家に閉じこめるなど
- 心理的虐待**▶ 言葉による脅し、無視、兄弟間の差別的扱い、子どもの目の前で配偶者への暴力をふるうなど

☎ 福祉・児童課 家庭児童相談室(☎内線87-0777) 夜間・休日(緊急の場合)勝山市役所宿直(☎88-1111)

銅賞

杉本遥菜(成器南小2年)、立石桃子(村岡小3年)、松村伊悟(村岡小5年)、小田雄大(成器西小6年)、石歌美央(中部中1年)、花田法彦(中部中1年)、八十嶋堯(南部中1年)、東山唯(北部中2年)

銀賞

丸屋直美(成器西小4年)、福田洋大(成器西小4年)、齋藤 伽林(中部中1年)、齋藤 駿(南部中2年)

金賞

9月10日は 下水道の日

勝山南部中学校3年 酒井理沙

村岡小学校6年 平澤史織

このコンクールは、下水道の役割や整備の重要性などについて、理解と関心を一層深めることを目的として、毎年行われています。(敬称略)

最優秀賞

勝山南部中学校3年 加藤 奏

男女共同参画ポスターコンクール入賞者

勝山市男女共同参画推進会議では、「男女共同参画社会」の実現をめざし、啓発活動の一環として毎年ポスターコンクールを実施しています。(敬称略)

展示期間

11月12日(日) 市民会館 展示ホール

11月13日(月)～25日(土) 勝山市民活動センター

11月26日(日)～12月3日(日) 市立図書館